

リーダーを探し、教室掲示に力を入れ、しっかり生徒を叱る

「教室掲示」ごときを心に誓ってのスタート?」と思われる方がいるかもしれませんが、私の場合、心に誓いたい事柄なのです

広島市立二葉中学校教諭
神垣 幸一

かみがき こういち
「担任は生徒指導の難動線」がモットーです。ずっと担任にこたわってきました。行事大好き人間で、行事に熱く燃える男です。

「よし、これに決めた」
何を決めたのかと言いますと、生徒たちと最初に出会う「学級開き」で締めるネクタイです。

新入生を迎えるときはお祝いの白色ですが、二年生、三年生の担任時はこだわります。当日の朝、決めます。燃える赤かエンジ色。そしてなぜか自分がそのとき一番気に入っているネクタイになります。

私にとって、生徒と最初に出会う瞬間は、緊張と決意の時間なのです。

無敵のリーダー

私は人の気持ちを理解し行動できる、リーダーの集団を育てたいと考えています。

年度初め、生徒との出会いの状況はいろいろです。新しい学校に転動した場

合、そのまま学年が持ち上がった場合、学校は同じだけれども違う学年に替わった場合……。それぞれの状況に応じた生徒とのかかわりが必要となってきますが、共通しているのは、どの生徒も最初は「がんばろう」という気持ちで新年度を迎えるということです。年度初めは、まさにチャンスの時です。

私はそのチャンスをも十分に活かせるよう、事前に自分が受け持つ学級の生徒の情報を徹底的に集め、リーダーの目星をつけるようにしています。品行方正で真面目な生徒は、それらの情報からすぐに見つかりますが、柔軟な見方やとらえ方を心がけながら情報を検討することで、意外な生徒が見つります。過去の情報を見ることができません。過去の情報から、これからの学級づくりに必要な情報を見つけ出すと言っているかもしれません。

新年度を迎えると、生徒同士の新しい人間関係が生まれ、学級の雰囲気がつくられていきます。学級の雰囲気はその年によって様々で、その学級の雰囲気の中

で活躍できるリーダーを育てないといけません。

リーダー性のある生徒は、言い換えるともわりの生徒に影響力のある生徒です。そういう生徒はよい方向へも悪い方向へも影響力があり、クラスを方向づけていきます。

私の学級の場合、少し問題行動のある生徒のほうで「できるリーダー」になり、私と私が行う学級経営に合っていたような気がします。この「少し」が大事で、その見極めが重要です。

品行方正で真面目なリーダーは、学級が落ち着いているときは力を発揮します。しかし、学級の状態によってはつぶれてしまうことがあります。

ですから、やんちゃな生徒にも声をかけることができ、他の仲間たちにも話ができるリーダーは貴重です。特に、女子でそのようなことができるリーダーは無敵です。私がそのような生徒を「ダイヤモンドの原石」と呼んでかわいがるのと、学級の生徒たちは「今度の担任は何か違うぞ」と思うようです。

ただ、昨今の厳しい中学生事情の中では、リーダーは一人ではつぶれてしまいます。ですから、リーダーのまわりの友達も一緒に育てることを強く意識します。

卒業した生徒の母親から、「小学校から高校までで、息子をほめてくれたのは先生だけです」と言われたことがあり、私のリーダー観は、多くの先生方と少々ずれているのかもしれませんが、まず心に誓うのは、今年もリーダーを探し、リーダーを育てることに力を注ぐということなのです。

青い教室

私の教室は青いのです。掲示物の文字は青色、掲示物の台紙も青色、壁のマークやラインも青色、賞状のたても青色、黒板に使う磁石も青色、カレンダーも青色、そして私のネームプレートも青い水槽ひもも青色……です。まるで、青い水槽の中にいるようです（失礼、これは少し美化しすぎました）。

今年度も、教室掲示には力を入れようと考えています。生徒が長い時間過ごす部屋なので、美しく清潔な部屋にしたいのです。言い換えれば、学習環境を整えるのかは担任の裁量です。

「教室掲示」ごときを心に誓ってのスタート?」と思われる方がいるかもしれませんが、私の場合、心に誓いたい事柄なのです。一年間、どうしてもこの気持ちを持続させたいのです。

掲示物は破られ、いたずら書きをされることもあります。過去には火をつけられたこともありました。学年や学級が荒れてくると、こういう状態が生まれてきます。掲示しても掲示しても破られると心が折れます。

教室の中の掲示物の様子は、その学級の安心・安全のバロメーターです。青色は心を落ち着かせると聞きます。かつて学級が荒れたとき、「できることはすべ